

8 情報教育部会		部会テーマ	小・中・高を通した体系的なプログラミング教育の調査研究について
内 容	当センター研究調査部では、昨年度から2年間にわたり、プログラミング教育に関する調査研究を実施してきた。本部会では、昨年度の成果物に加え、今年度の研究協力委員による授業実践等を紹介することで、小・中・高等学校を通した体系的なプログラミング教育の在り方を考える。これらを通して、質の高いプログラミング教育及び児童・生徒の情報活用能力の育成について考える機会とする。		
部 会 担 当	福田 智貴（総合教育センター）	指導助言者	渡邊 茂一（国立教育政策研究所）

※ 時刻はおよその目安です。予定時刻通りにならない場合もありますことを御了承願います。

説明 本部会の説明と今年度の調査研究について

9時20分～ 9時30分

総合教育センター研究調査部 福田 智貴

発表① 小学校家庭科におけるプログラミング教育

9時30分～ 9時40分

栃木市立合戦場小学校 萩原 益実

小学校でプログラミング教育が必修化されて5年が経過したが、現在も、実際に授業を行う上で様々な課題が見られる。ここでは、家庭科の授業においてプログラミング教育を取り入れた実践内容及び成果と課題について発表する。

発表② 小学校理科におけるプログラミング教育

～表現力の向上を目指して～

9時40分～ 9時50分

那須塩原市立東小学校 千葉慎太郎

言葉や絵では伝わらないことも、動きのある動画を使用することで表現力が高まると考える。ここでは、理科の学習において学んだことを生かすために、プログラミングを活用した授業展開について発表する。

発表③ 問題の発見とプログラミングによる問題解決

～プロロボを使って身近な問題を解決しよう～

9時50分～10時00分

宇都宮市立晃陽中学校 並木 幹太

プログラミング教育を通して課題発見能力と問題解決力の育成を目的とした実践報告を行う。教育用ロボット「プロロボ」を活用し、生徒が学校や地域にある身近な問題を見つけ、プログラミングで解決策を開発する授業モデルを提案し、その効果と課題を発表する。

質疑等

10時00分～10時15分

指導助言

10時15分～10時30分

国立教育政策研究所 渡邊 茂一